

当院で行っている頭蓋内微小血管減圧術 (microvascular decompression) について

全身麻酔下に身体を横に向け、頭部を固定します。耳の後ろの髪の毛のごく一部を除毛し、直線状の皮膚切開を行います。頭蓋骨には500円玉程度の穴を開け、その下の硬膜を切開した後に髄液を排出し、手術用顕微鏡を用いて手術を行います。

適切にくも膜を切開しながら小脳と頭蓋骨の間をそれぞれ顔面神経、三叉神経、舌咽神経にアプローチします。いずれの病態に対しましても、責任血管を確実に減圧します。文献や報告によっては神経と血管の間にもものを挟む方法(インターポジション法)をとる施設もあるようですが、当院では神経と血管の間には何も挿入しません。確実に血管を吊り上げ、骨側に移動し、接着する方法(トランスポジション法)をとることで、治癒率の向上につながっております。

当院の頭蓋内微小血管減圧術は尼崎が執刀しております。片側顔面痙攣の手術の際には聴性脳幹反応(ABR)モニターを行っており、手術後の聴力障害は非常に低く抑えられています。

(開頭イメージ)

(片側顔面痙攣)

(三叉神経痛)

(舌咽神経痛)

